



明日を気持ち良く迎える 準備をすする

ビジネスタイムを快適に過ごしたいからサルキシアン氏は着心地重視のスーツにこだわっているのだ。

朝5時半に起床し、自室でひと仕事し、8時にはオフィス入り、深夜まで仕事に没頭することも。時計・宝飾のピアジェを牽引するサルキシアン氏のウイークデイは多忙だ。いっぽう、休日には家族と公園に出かけたり、子供のテニスを観戦するなどして楽しむが、ときにはテラーで、スーツオーダーという息抜きも。

現在、所有する多くのスーツのうち、レイメイドは「着のみ」というから、ビスポークへのこだわりは徹底的だ。同氏が最初にスーツをオーダーしたのは12年前。「就職の面接で自分をよく見せたい」というのが動機だった。以来、ジュネーブの小さなテラーを歩き着けにしている。

「パレル・カルロ」というイタリア人の店なんですけど、この人が頑固ですね。顧客の体型が変わってしまうと怒るんですよ。「勝手に太るな。元の体型に戻せ」って(笑)。

ちなみに、来日してからは東京・神田の某テラーを、また、ビスポークシャツでは都内の某パートをもつか鼻肩にしているという。

生地選びはソフト重視 スタイルはクラシカル

スーツオーダーに当たり、サルキシアン氏が最も重視するのが素材だ。「仕事で着るものだけに、快適性や動きやすさを優先して生地はソフトなものを選びます。冬用はある程度厚手ですが、それでも軽さを重視しているんです。色はグレイ、ネイビー。最近では茶系が気に入ってます」

また、スタイルやディテールでは「3つボタンの段返り」「チェンジポケット付き」「4ホール・2つボタンのオープンスリーブ」「サイドベンツ」など、クラシックを好むサルキシアン氏の必須条件がある。

「生地や色は違っていても、ディテールは皆同じ。ひとつが好きになると、ずっとそれだけという性格なので……。シャツについてはトップボタンのみ色違いにしたり、腕時計への当たりを考慮して袖裏をソフトな生地にするなど、よりミニアツクなこだわりを持っています」

ユニークなのはベルト。リバーシブルの特注クロコ製を愛用しているが、そこにスーパーマンのロゴを模したバックルを取り付けているのだ。このバックル、実は本国のスタッフからのプレゼントで、これもまたハンドメイドによる特注品らしい。

なお、同氏の趣味にはこの他にペンのコレクションがあり、現在、約100本を所有する。カテゴリーは万年筆に限らず、ブランドもモンテグラッパやモンブラン、パーカーなどが好みではあるが、スタイルの美しいものなら、とくに「こだわらない」。

一番の自慢は7年前にパキスタンで採り当てたパーカーの超レアなチタン製で、他にもデモンストレーション用に各メーカーが製作したスケルトンペンなども好んで集めている。「でも、集めるばかりではなく、どのペンもちゃんと使っています。スーツもペンも仕事を快適にするための、私なりのこだわりなんです」

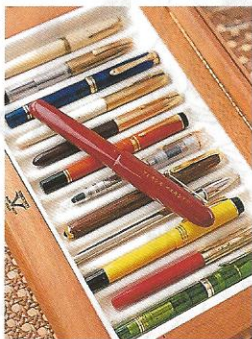
ピアジェジャパン CEO
アレキシス・サルキシアン氏

1965年生まれ。米国にてファイナンシャルを学び、後にMBA取得。'91年、ピアジェ入社。'01年8月よりピアジェの日本市場での新展開を推進すべく、家族と日本滞在。37歳。



インタビュー中、腕にしていたのはピアジェ・エンペラドールのP.G.針&ケース、青文字盤、スーパーミノノ採用の世界限定10本という逸品だ。2ツ釦のカフスのシャツはもちろんオーダーメイド。

「休日、行き着けのテラーを訪れる。着心地重視だから スーツはオーダーが二番」



ペンのコレクション。一番上は今年5月の誕生日に奥方から贈られたパイロットの万年筆。カタカナで同氏の名が刻印してある。



手前2着がスイスメイドで、奥の2着および写真右下でサルキシアン氏が着用しているのが日本でオーダーしたスーツだ。

HOW TO & HOW MUCH

スーツオーダーは店&生地選びが重要

「ビスポークスーツを未経験なら、ぜひトライすべきです。着心地のよさを実感するはず」とサルキシアン氏。その場合、生地の裁断次第で着心地が大きく変わるゆえ、カットの上手い店を選びたい。たとえば、仕立てと裁断に徹底的にこだわる神宮前のブルーロンドはM.E.お薦めのテラーだ。

ブルーロンド

澤村秀隆氏率いる新進テラー。ビスポーク25万円〜。◎東京都渋谷区神宮前2-17-6神宮前ビル403 ☎03-5474-3424 ⑧12時〜21時 ⑨不定休(完全予約制)

